

健康社会医学

1 構 成 員

	平成 19 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
助教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	（ 0 人）
助手（うち病院籍）	1 人	（ 0 人）
医員	0 人	
研修医	0 人	
特別研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	（ 0 人）
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	7 人	

2 教員の異動状況

教員の姓名、職名、昇任（採用）年月日～現職、の順に書いてください。

尾島 俊之（教授）（H18.4.1～現職）

村田千代栄（助手）（H17.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 18 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	22 編	(10 編)
そのインパクトファクターの合計	26.17	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	8 編	(8 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之：市町村合併後の保健活動 全国の現状と課題. 公衆衛生, 70(7): 502-505, 2006.
2. 尾島俊之：標準的な市町村保健師数算定に関する研究. 保健師ジャーナル, 63(3):198-203, 2007.

3. Murata C, Yatsuya H, Tamakoshi K, Otsuka R, Wada K, Toyoshima H: Psychological factors and insomnia among male civil servants in Japan. *Sleep Med*, 8(3):209-214, 2007. Epub 2007 Mar 21.
4. Murata C, Kondo T, Tamakoshi K, Yatsuya H, Toyoshima H: Factors associated with life space among community-living rural elders in Japan. *Public Health Nurs*, 23(4):324-331, 2006.
5. Zhang Y, Ojima T, Murata C: Calcium Intake Pattern among Japanese Women across Five Stages of Health Behavior Change. *J Epidemiol*, 17(2): 45-53, 2007.

インパクトファクターの小計 [5.05]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 []

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Guan P, Tajimi M, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Ojima T, Nakamura Y: Congener profiles of PCDDs, PCDFs, and dioxin-like PCBs in the breast milk samples in Tokyo, Japan. *Chemosphere*, 62(7): 1161-1166, 2006.
2. 柴田眞理子、尾島俊之、中村好一：快適な妊娠・出産における分娩期の体位に関する産婦人科医の考え方及び実態に関する研究．上武大学看護学部紀要, 1: 1-15, 2006.
3. 三砂ちづる、竹原健二、岡井崇、戸田律子、北井啓勝、林公一、柴田眞理子、尾島俊之、阿相栄子、中村好一：日本の赤ちゃんは出産後に母子同室で過ごしているか 産婦人科医と助産師を対象とした横断研究より．母性衛生, 47(2): 448-454, 2006.
4. 利谷健治、小林聡幸、大澤卓郎、加藤敏、衛藤進吉、尾島俊之：統合失調症初診症例は減少しているか？ 大学病院・総合病院精神科外来での初診割合の調査．精神神経学雑誌, 108(7):694-704, 2006.
5. 大木いずみ、上原里程、小林英司、梶井英治、尾島俊之、倉澤美和、丹羽美和子、丹羽治男、高屋敷明由美、椎名くに：女性医師調査 ―地域医療を担う人材を応援するために―．日本医事新報, 4302: 68-72, 2006.
6. 岩城孝明、尾島俊之、中村好一：地域の中核的病院における救急医療機能の分担状況 ―三重県東紀州地域における医療圏と日常生活圏―．病院管理, 43(4): 357-365, 2006.
7. Kabuto M, Nitta H, Yamamoto S, Yamaguchi N, Akiba S, Honda Y, Hagihara J, Isaka K, Saito T, Ojima T, Nakamura Y, Mizoue T, Ito S, Eboshida A, Yamazaki S, Sokejima S, Kurokawa Y, Kubo O: Childhood leukemia and magnetic fields in Japan: a case-control study of childhood leukemia and residential power-frequency magnetic fields in Japan. *Int J Cancer*, 119(3):643-650, 2006.
8. Davaalkham D, Ojima T, Nymadawa P, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Nakamura Y: Prevalence and Risk Factors for Hepatitis C Virus Infection in Mongolian Children: Findings from a Nationwide Survey. *J Med Virol*, 78(4): 466-472, 2006.

9. Davaalkham D, Ojima T, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Endo K, Takahashi M, Okamoto H, Nakamura Y: Analysis of hepatitis B surface antigen mutations in Mongolia: Molecular epidemiology and implications for mass vaccination. Arch Virol, 152(3):575-584, 2007.
- 1 0. Davaalkham D, Ojima T, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Nymadawa P, Takahashi M, Okamoto H, Nakamura Y: Hepatitis delta virus infection in Mongolia: Analyses of geographic distribution, risk factors and disease severity. Am J Trop Med Hyg, 75(2): 365-369, 2006.
- 1 1. Hoshida S, Ishikawa J, Eguchi K, Ojima T, Shimada K, Kario K: Masked nocturnal hypertension and target organ damage in hypertensives with well-controlled self-measured home blood pressure. Hypertens Res, 30 (2):143-149, 2007.
- 1 2. 若林チヒロ、尾島俊之、萱場一則、三浦宜彦、柳川洋：国民栄養調査の解析による「健康日本 21」目標達成の予測 ～肥満を中心に～. 厚生指標, 54(3): 7-12, 2007.
- 1 3. 山口恵、萱場一則、尾島俊之、高久悟、新村洋未、柳川洋：全国の市区町村における健康日本 21 による歯の健康に関する項目の現状把握と目標達成に関する調査結果. 日本公衆衛生雑誌, 54(2): 107-113, 2007.
- 1 4. 竹田徳則、近藤克則、平井寛、村田千代栄：地域在住高齢者の認知症発症と心理・社会的側面との関連. 作業療法, 26(1):55-65, 2007.
- 1 5. Wada K, Tamakoshi K, Yatsuya H, Otsuka R, Murata C, Zhang H, Takefuji S, Matsushita K, Sugiura K, Toyoshima H: Association between parental histories of hypertension, diabetes and dyslipidemia and the clustering of these disorders in offspring. Prev Med, 42(5):358-363, 2006.
- 1 6. Otsuka R, Tamakoshi K, Yatsuya H, Murata C, Sekiya A, Wada K, Zhang HM, Matsushita K, Sugiura K, Takefuji S, OuYang P, Nagasawa N, Kondo T, Sasaki S, Toyoshima H: Eating fast leads to obesity: findings based on self-administered questionnaires among middle-aged Japanese men and women. J Epidemiol, 16(3):117-124, 2006.
- 1 7. Ishikawa M, Tamakoshi K, Yatsuya H, Suma K, Wada K, Otsuka R, Matsushita K, Zhang H, Murata C, Kondo T, Toyoshima H: Factors related to frequency of engaging in outside activities among elderly persons living an independent life at home. Nagoya J Med Sci, 68(3-4):121-130, 2006.

インパクトファクターの小計

[21.12]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 []

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 []

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 []

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 村田千代栄：第 5 章不眠（近藤克則編集）検証「健康格差社会」：介護予防に向けた社会疫学的大規模調査．医学書院,37-42, 2007.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中村好一編集、上原里程、尾島俊之、笠置文善、黒沢洋一、杉山裕美、中村好一、西信雄、三浦克之、三浦宜彦、山縣然太郎、渡邊至著：論文を正しく読み書くための やさしい統計学．診断と治療社，2006.
2. 岡本悦司、小橋元、坂田清美、佐藤敏彦、西浦博、横山英世、岡田充史、尾島俊之、亀崎豊実、高橋美保子、富田敦子、山本秀樹、渡邊亮一：サブノート第 30 版 保健医療論・公衆衛生学（2007 年版），Medic Media，2006.
3. 大井田隆、兼板佳孝、横山徹爾、曾根智史、山縣然太郎、水嶋春朔、尾島俊之、青山旬、谷原真一、中山健夫、吉池信男、藤本眞一、小橋元、青木良太、赤木真寿美、杉山龍司：図説 国民衛生の動向, 2006. （財）厚生統計協会，2006.
4. 柳川洋、中村好一、児玉和紀、三浦宜彦編集、阿彦忠之、荒尾孝、伊木雅之、井上真奈美、

岩室紳也、上島弘嗣、種田行男、大木いずみ、岡山明、尾島俊之、萱場一則、岸本拓治、國澤尚子、車谷典男、児玉和紀、坂田清美、砂川富正、谷原真一、堤明純、藤内修二、土井由利子、中村好一、馬場園明、藤井史俊、松田晋哉、三浦宜彦、安井良則、柳川洋、山縣然太郎、吉村典子、若林チヒロ執筆：地域保健活動のための疫学 第2版．日本公衆衛生協会，2006．

- 5．柳川洋編集、柳川洋、永井正規、小田清一、鏡森定信、萱場一則、坂田清美、尾島俊之著：基礎から学ぶ健康管理概論．南江堂，2006．
- 6．柳川洋、中村好一編集．柳川洋、尾島俊之、坂田清美、中村好一、萱場一則、中川秀昭、黒沢洋一、能川浩二著：公衆衛生マニュアル 2007，南山堂，2007．
- 7．近藤克則編集、近藤克則、吉井清子、松田亮三、中出美代、村田千代栄、竹田徳則、吉川郷主、平井寛、末盛慶、斎藤嘉孝、遠藤秀紀、加藤悦子、市田行信執筆、阿彦忠之、石崎昌夫、尾島俊之、近藤直己、杉澤秀博、そうけ島茂、高鳥毛敏雄、堤明純、豊川智之、中山健夫、西田茂樹、橋本英樹、林謙治、福田吉治編集協力：検証「健康格差社会」．医学書院，2007．
(上記のAの1と同一)

(5) 症例報告

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1．

インパクトファクターの小計 []

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1．

インパクトファクターの小計 []

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1．

インパクトファクターの小計 []

4 特許等の出願状況

	平成 18 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

1．

5 医学研究費取得状況

	平成 18 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(100 万円)
(2) 厚生科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(60 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

尾島俊之 (代表者) 基盤研究 (C) 市町村における地域保健活動のエンパワーメントに関する疫学的研究 100 万円 (継続)

(2) 厚生科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

尾島俊之 (分担者) 高齢者の特質に配慮した総合検診システム (長寿人間ドック) の構築に関する研究 (分担研究課題 効率的な高齢者検診システムの構築に関する研究) 60 万円 (継続) 代表者 国立長寿医療センター 徳田治彦

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

ここには、特定領域研究の領域代表者以外の特定領域研究の計画研究代表者や公募研究代表者は記入しないでください。また、基盤研究の研究代表者も対象外です。ここに記入するのは、CREST, ERATO, COE, 未来開拓などの数千万/年以上の研究費の研究代表者のみとしてください。

1.

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	5 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	1 件	5 件
(6) 一般演題発表数	6 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等を当該教室が開催された場合、あるいはそれらの運営委員、組織委員、ある

いはシンポジウム等のオルガナイザー等をされた場合、研究者名、その役割、会議名（場所、国名）、開催年月、（およその）参加者数についてお書きください。

2) 当該教室から国際学会・会議等において基調講演・招待講演をされた研究者について、研究者名、講演テーマ、会議名、場所（国名）、開催年月をお書きください。

3) 当該教室から国際学会・会議等のシンポジウムにおいて発表された研究者について、講演者名、講演タイトル、会議名、場所（国名）、開催年月をお書きください

4) 当該教室から国際学会・会議等において座長をした場合、座長者名、国際学会名、場所、開催年月をお書きください

5) 国際学会・会議等へ参加し、発表をした研究者について、口頭発表とポスター発表を分けて発表者名、演題タイトル、会議名、開催年月、場所（国名）をお書きください。

口頭発表

1. Davaalkham D, Ojima T, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Nakamura Y: Obesity and underweight patterns among Mongolian elementary school children: Implications from national data. American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition, 2006.11.7, Boston (USA)
2. Davaalkham D, Ojima T, Nymadawa P, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Nakamura Y: Winter administration of Hepatitis B vaccine as an important predictor of high prevalence of HBV infection in rural areas of Mongolia. American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition, 2006.11.8, Boston (USA)
3. Nakade M, Murata C, Hirai H, Yoshii K, Kondo K: Oral health and nutrition among the elderly: Regional and SES differences. American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition,, 2006.11.4-8, Boston (USA)

ポスター発表

1. Ojima T, Kayaba K, Yanagawa H: Impact of passive smoking regulation by health promotion law in Japan. American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition, 2006.11.7, Boston (USA)
2. Murata C, Yoshii K, Hirai H, Kondo K: Depression is associated with lower SES among community-living elders in Japan. (Nobuo Maeda International Research Award 受賞) American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition, 2006.11.4-8, Boston (USA)
3. Murata C, Yatsuya H, Tamakoshi K, Otsuka R, Toyoshima H: Job stress and insomnia among civil servants in Japan. American Public Health Association 134th Annual Meeting & Exposition, 2006.11.4-8, Boston (USA)

(2)国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

尾島俊之 日本福祉大学 2007 年度シンポジウム 2007.3.18 名古屋

尾島俊之 第 65 回日本公衆衛生学会総会 健やか親子 21 第 6 回自由集会 2006.10.25 富山

4) 座長をした学会名

尾島俊之 第 52 回東海公衆衛生学会学術大会 2006.7.22 大府

尾島俊之 第 65 回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山

尾島俊之 第 17 回日本疫学会学術総会 2007.1.26 広島

尾島俊之 第 43 回静岡県公衆衛生研究会 2007.2.13 静岡

尾島俊之 平成 18 年度全国保健所長会研修会パネルディスカッション 2007.2.2 東京

5) 学会発表

口頭発表

佐甲隆、田沢光正、尾島俊之、他：市町村における健康指標情報収集とその活用に関する研究 第 65 回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

ポスター発表

1. 尾島俊之、藤内修二、岩室紳也、他：健やか親子21推進の効果に関する研究(第4報) 乳幼児健康診査時の事故防止対策 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山
2. 村田千代栄、中出美代、平井寛、竹田徳則、尾島俊之、近藤克則：地域在住高齢者における不眠の関連要因 第 65 回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山
3. 尾島俊之、村中峯子、佐甲隆、他：市町村保健活動の主観的エンパワーメント度と活動成果との関連 第17回日本疫学会学術総会 2007.1.26 広島
4. Zhang Y, Shibata Y, Murata C, Ojima T: Determinants of calcium intake and knowledge among Japanese women for osteoporosis prevention 第17回日本疫学会学術総会 2007.1.26 広島
5. 柴田陽介、張媛、村田千代栄、尾島俊之：スポーツ行動率と死因別死亡率の地域相関研究 第17回日本疫学会学術総会 2007.1.26 広島
6. 竹田徳則、近藤克則、平井寛、村田千代栄、中出美代：要介護認定された高齢者の認知症発症に関するコホート研究 心理・社会面との関連 第 65 回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山
7. 上原里程、屋代真弓、大木いずみ、尾島俊之、他：川崎病親子例の疫学特性の比較 川崎病全国調査結果を用いて 第109回日本小児科学会学術集会 2006.4.21-23 金沢
8. 岡本玲子、塩見美抄、岩本里織、尾島俊之、他：保健師の専門能力獲得に関する研究（第

1報)～習得に役立ったことに焦点をあてて～ 第9回日本地域看護学会学術集会

2006.7.29-30 和光

9. 塩見美抄、岡本玲子、岩本里織、尾島俊之、他：保健師の専門能力獲得に関する研究(第2報)～望まれる習得方法に焦点をあてて～ 第9回日本地域看護学会学術集会

2006.7.29-30 和光

10. 若林チヒロ、尾島俊之、萱場一則、他：国民栄養調査にみる「健康日本21」目標達成の見通し～肥満及び関連要因の解析～ 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

11. 國澤尚子、新村洋未、若林チヒロ、尾島俊之、他：「健康日本21」地方計画の目標達成見通し～主要項目の解析～ 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

12. 新村洋未、若林チヒロ、國澤尚子、尾島俊之、他：「健康日本21」地方計画における喫煙対策の現状～全国市町村現状調査より～ 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

13. 山口恵、萱場一則、尾島俊之、他：「健康日本21」地方計画における歯周病対策の現状 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

14. 浦園その子、佐甲隆、田沢光正、尾島俊之、他：市町村保健センター施設・備品設置傾向(調査報告) 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

15. 井上清美、岡本玲子、塩見美抄、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究1 現任教育担当者が効果的と感じた教育研修方法 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

16. 塩見美抄、岡本玲子、岩本里織、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究2 能力向上に必要なことと自治体の取り組みの現状 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

17. 岩本里織、岡本玲子、塩見美抄、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究3 卒後教育体制整備に関する意見 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

18. 岡本玲子、鳩野洋子、塩見美抄、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究4 能力向上に必要な改革に関する意見収集 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

19. 村中峯子、佐甲隆、田沢光正、尾島俊之、他：市町村における委託契約の現状と支援について 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

20. 須藤加奈、矢口君江、渡辺晃紀、尾島俊之：栃木県旧栗山村生活習慣実態調査の結果について 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.26 富山

21. 高橋輝美、大木いずみ、五月女幸子、尾島俊之、他：足利市公立保育所保護者の育児負担感に影響を与える要因の検討 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山

22. 藤内修二、糸数公、岩室紳也、尾島俊之、他：健やか親子21推進の効果に関する研究(第1報) ベースライン値との比較 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山

23. 福島富士子、櫃本真聿、藤内修二、尾島俊之、他：健やか親子21推進の効果に関する研究(第2報) 妊娠・出産・育児の満足度の要因と出産意欲 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山

24. 端谷毅、藤内修二、岩室紳也、尾島俊之、他：健やか親子21推進の効果に関する研究(第3報) 母乳育児の効果と促進要因 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山

25. 糸数公、藤内修二、福永一郎、尾島俊之、他：健やか親子21推進の効果に関する研究(第5報) NPO等との協働 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山
26. 大木いづみ、尾島俊之、上原里程、他：女性医師と育児・介護の両立について 女性医師調査結果から 第65回日本公衆衛生学会総会 2006.10.25 富山
27. 近藤今子、大城祐子、尾島俊之：市町村における栄養改善業務及び行政栄養士業務の状況（第一報）～市町村に関すること 第53回日本栄養改善学会学術総会 2006.10.27 つくば
28. 大城祐子、近藤今子、尾島俊之：市町村における栄養改善業務及び行政栄養士業務の状況（第二報）～栄養士に関すること 第53回日本栄養改善学会学術総会 2006.10.27 つくば
29. 岡本玲子、塩見美抄、岩本里織、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究(1) 強化を要する専門能力到達段階の実態 第26回日本看護科学学会学術集会 2006.12.3 神戸
30. 塩見美抄、岡本玲子、岩本里織、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究(2) 強化したい能力と強化方法に関する保健師の意向 第26回日本看護科学学会学術集会 2006.12.3 神戸
31. 岩本里織、岡本玲子、塩見美抄、尾島俊之、他：保健師の専門能力向上に関する研究(3) 自己研鑽の実態と希望する学習支援体制 第26回日本看護科学学会学術集会 2006.12.3 神戸
32. Davaalkham D, Ojima T, Uehara R, Watanabe M, Oki I, Endo K, Takahashi M, Okamoto H, Nakamura Y: Molecular epidemiology of hepatitis B surface antigen mutations in Mongolia 第17回日本疫学会学術総会 2007.1.26 広島

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之 日本公衆衛生学会 評議員
 尾島俊之 日本公衆衛生学会 査読委員
 尾島俊之 日本疫学会 評議員
 尾島俊之 日本疫学会 ニュースレター編集委員
 尾島俊之 日本循環器管理研究協議会 評議員
 村田千代栄 アメリカ公衆衛生学会 2006 年度査読委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌の編集：Journal 名（スポンサー学会等）、役割（編集者、Editorial Board）、PubMed/Medline 登録の有無、インパクトファクターの有無。

(2) 外国の学術雑誌の編集：雑誌名（機関名、学会名、国）、役割（Editorial Board）、出来れば

PubMed/Medline の登録、インパクトファクター等についてお書きください。

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー (reviewer) の回数と雑誌名 (国) をお書きください。

尾島俊之 2 回 Journal of Epidemiology (日本)
1 回 Hypertension Research (日本)
1 回 Tohoku Journal of Experimental Medicine (日本)

村田千代栄 2 回 Social Science & Medicine (USA)
1 回 Health Affairs (USA)
1 回 Journal of Epidemiology (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成 18 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	8 件
(3) 学内共同研究	1 件

(1) 国際共同研究

1) 当該教室が実施あるいは参画した国際共同研究について、テーマ、相手機関 (国)、期間、様式 (資料の交換、研究者の派遣)、研究成果等 (論文) についてお書きください。出来れば研究費及びその出所についてもお書きください。

Davaalkham Dambadarjaa (モンゴル医科大学) モンゴルにおける B、C、D 型肝炎等に関する研究 (WHO 予防接種拡大計画、地域社会振興財団)

(2) 国内共同研究

近藤克則 (日本福祉大学社会福祉学部) AGES (愛知老年学的評価研究): 地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究

豊嶋英明 (名古屋大学大学院医学系研究科公衆衛生学) 職域コホート追跡研究: 自治体職員を対象にした生活習慣病の発症予防に関する縦断研究

石川鎮清 (自治医科大学地域医療学センター) JMS コホート研究

山縣然太朗 (山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座) 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究

岡本玲子 (神戸大学保健学科地域看護学) 変革期に対応する保健師の新たな専門技能獲得に関する研究

徳田治彦（国立長寿医療センター） 高齢者の特質に配慮した総合検診システム（長寿人間ドック）の構築に関する研究

柳川洋（埼玉県立大学）「健康日本 21」の目標達成度を測定するための疫学指標の開発と評価

水嶋春朔（国立保健医療科学院） 地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究

(3) 学内共同研究

坂尾幸俊（内科学第一） 検診からみた浜松市の慢性腎臓病(CKD)患者数の推計

10 産学共同研究

	平成 18 年度
産学共同研究	0 件

1.

11 受賞

(1) 国際的な賞等の授賞について、タイトル、機関・学会等についてお書きください。

村田千代栄、2006 Nobuo Maeda International Research Award、アメリカ公衆衛生学会

(2) 外国からの名誉博士号、客員教授、名誉教授、名誉会員等の称号の授与について、称号名、機関、国名をお書きください。

(3) 国内での授賞について、受賞者名、賞の名前、授賞年月をお書きください。

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. AGES（愛知老年学的評価研究）

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めている AGES（Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究）プロジェクトに、当教室も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2003 年には、3 県 15 自治体における一般高齢者 3 万人の大規模コホートとなった。自記式アンケート結果と自治体の要介護認定データとリンクすることで、自立高齢者を追跡し、要介護および認知症発症など健康寿命喪失に関わる要因を探ることを目的とする。2006 年秋から 2007 年春にかけて、3 回目のアンケート調査が実施された。研究結果は「検証健康格差社会」というタイトルで医学書院から 2007 年 3 月に出版され、医学書院の共催で行われた出版記念シンポジウムには、アメリカのハーバード大学より、社会疫学の第一人者であるイチロー・カワチ教授および、S.V.スブラマニアン助手を招へいた。本研究は、自治体や医療関係者からも注目され、依頼により、山口県の社会保険推進協議会で講演を行った。また、高齢者のうつに関する研究は、ボス

トンで行われたアメリカ公衆衛生学会で 2006 Nobuo Maeda International Research Award を受賞した。
(村田千代栄、尾島俊之、健康の不平等研究会、日本福祉大学 COE 推進室)

2. 職域コホート追跡研究

1997 年から名古屋大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室で進めている職域コホート縦断研究のデータ解析に当教室も関わっている。2002 年に得られた 40-59 歳の自治体職員 6651 人のデータのうち、男性事務職 3435 人に限った解析で、職業ストレスと不眠に関連があり、生きがいを持つことや、相談相手がいることなど心理社会的要因が、不眠のリスクの低下と関わっていることが確認され、研究結果は、**Sleep Medicine** 誌に掲載された。掲載に先立ち、結果の一部は、日本疫学会、アメリカ公衆衛生学会、国際疫学会で発表された。

(村田千代栄、名古屋大学大学院医学系研究科公衆衛生学教室)

3. モンゴルにおける B、C、D 型肝炎等に関する研究

モンゴルはウイルス性肝炎、肝硬変の罹患率が非常に高く、全出生児を対象とした B 型肝炎予防接種事業が実施されている。そこで、B、C、D 型肝炎の記述疫学像および危険因子を明らかにし、また予防接種事業の効果を検証することを目的として、モンゴル全土から多段階無作為クラスター抽出を行った小学校 2 年生を対象とした調査を行った。この研究は、自治医科大学とモンゴル医科大学の共同研究であり、B 型肝炎予防接種の効果検証については WHO 予防接種拡大計画から、その他の部分は地域社会振興財団から研究費を得ている。データ収集等は前年度までに終了しており、今年度は論文執筆等を行った。この研究により、B、C、D 型肝炎の有病率が明らかとなり、予防接種導入後の B 型肝炎有病率は改善していることが明らかとなった。ただし、田舎での B 型肝炎有病率は高く、冬季の予防接種の際に予防接種液が凍結したため被接種者の抗体獲得が不十分となっていることが示唆された。また、C 型肝炎は都市部において有病率が高く、医療行為が危険因子として明らかになり、医療器具の滅菌等の徹底の不備が示唆された。

(尾島俊之、自治医科大学公衆衛生学教室、モンゴル医科大学)

4. JMS コホート研究

自治医科大学地域医療学センターが中心になって実施している全国 12 地区の住民を対象としたコホート研究に参画している。今年度、当教室および静岡県内の共同研究者は、緑茶摂取の循環器疾患予防効果についての分析を担当している。中間解析では、その効果が示されており、論文執筆作業等を進めているところである。

(尾島俊之、自治医科大学地域医療学センター、JMS コホート研究グループ)

5. 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究

厚生労働省が中心となって提唱している健やか親子 21 を推進するための厚生労働科学研究に分担研究者として参画している。市町村等の地域保健現場における母子保健に関する情報収集のあり方について検討し、情報システムのモデルを作成している。また、全国から無作為抽出された市町村の一定期間の乳幼児健診受診者の母親等への調査データの分析を行っている。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

AGES（愛知老年学的評価研究）では、所得や学歴等の社会経済因子による健康格差が我が国でも歴然とあることを明らかにし、社会的に大きなインパクトを与えた。モンゴルにおける B、C、D 型肝炎等に関する研究では、モンゴルにおける B 型肝炎予防注射液の凍結による活性低下の可能性、また医療器具等の滅菌が不十分である可能性を明らかにし、モンゴルにおける公衆衛生の向上に対して非常に重要な知見を与えた。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

働き盛りの中高年を対象にしたコホート縦断研究は、各種生活習慣病の発生に関わる要因について、生活習慣、ストレス、身体活動などについてのアンケート結果、健診データ、血清データ、食品頻度調査、疾患の家族歴、個人の病歴データを元に、多面的な方向から、生活習慣病発生に関わる要因についての検討を行っている。1999 年と 2002 年のデータが蓄積され、現在も進行中である。

AGES プロジェクトは、公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また、所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者 3 万人を対象にしたコホート研究は、国内外でも稀少であり、韓国、アメリカの大学との比較共同研究の話も進んでいる。この研究は、根拠に基づく介護予防政策立案に向け、基礎的データの提示を目標としているが、政策に直結するような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ、研究の継続性、政策への応用性が見込まれる。

モンゴルにおける B、C、D 型肝炎等に関する研究では、モンゴル医科大学、またモンゴル保健省、WHO 予防接種拡大計画と共同で、国際的な研究を展開した。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 健康の不平等研究会、毎日新聞：所得格差は健康に悪い（2006.07.22）
2. 健康の不平等研究会、民医連新聞：脱 格差社会の処方箋（2007.01.01）
3. 健康の不平等研究会、日本経済新聞：「健康の不平等」日本でも（2007.01.28）